

研修医教育の現在・過去・未来「平成29年度茨城県救急ライセンス研修の開催報告」

過去：緊急救命治療のばらつき

日本に「ACLS」という考え方が米国から入ってきたのは、1992年（平成4年）のことです。当時は非AHA（アメリカ心臓協会）コースを有志で行っていました。いち早く現場にこの教育と臨床応用を取り入れた船橋や札幌でのドクターカーシステムは、病院外心肺停止者社会復帰率が他地域に比較して3～4倍と驚異的な実績を示しています。米国では診療科を問わずこの講習を身につけなければ、臨床現場に出られない州も存在していました。一方、日本では指導者や診療科によって使用薬剤や手法がまちまちであり、かつては「急変＝まず気管挿管」と教育されていました。2000年に国際ガイドラインが米国と欧州で共同発表された際も、日本は潮流からはずれそうになっていました。

現在：茨城の研修医救急蘇生教育は国際標準

研修医に対する救急蘇生教育が始まったのは2006年（平成18年）のことでした。当時の県庁医療対策課担当者の先見の明から、他県では行えない質の高い教育「茨城県の研修医教育は世界標準」をテーマにNPO法人ACLS協会（2004年・平成16年茨城支部発足から2年後）とともに開始されました。初年度はBLS・ACLSを57名の研修医が受講し、昨年（2016年・平成28年）開催11年を経過した時点でACLS 451名、BLS 732名、計1183名がAHAプロバイダー資格を取得しました。現場に教育効果が表れるには時間を要しますが、患者急変時の確実な技術や知識を持った研修医が臨床現場にいることは、茨城県内の医療現場で患者急変時リスクマネジメントにつながることは確実です。現在のライセンス研修における課題は、地域救命率同様、受講に関して地域差が生じていることでしょう。

今年の開催は、第一回ACLSを7月29～30日に受講者26名、第二回は8月19～20日に受講者21名ですすでに開催（写真）終了し、最終回は9月17～18日に予定されています。

未来：専門医取得などにむけた資格

毎年、2月末の公募ACLSコースは日本全国から受講希望の医師が殺到します。

臨床研修医は専修医として、自分の専門領域の更なる修練ののち専門医試験を迎えます。現在、循環器専門医と麻酔科専門医は、試験受講に際してAHA-ACLSコースの受講が必須条件になっています。前述したような教育を行っていない他県では、直前になって受講を申し込んでくる「かけこみ受講」が年度末の風物詩です。研修医諸君の将来を見据えた教育を実践している茨城県内の研修医には無縁な話です。

さらに、病院機能評価も国際的になりつつあり、JCI（Joint Commission International：国際病院機能評価：本部シカゴ）では、全医師のAHAコース受講が条件とされています。（現在、日本は認定移行期間）

研修医の未来を視野に入れた教育活動は、地域にいながらも国際的活躍も期待した茨城県研修医教育に対する気持ちの表れです。未来において「よかつ、茨城」に気づく医師もいる事でしょう。



独立行政法人 国立病院機構
水戸医療センター

救命救急センター長
安田 貢



次回開催案内 <AHA-PEARSプロバイダーコース>

PEARS（小児救命処置）：Pediatric Emergency Assessment, Recognition, and Stabilization

内 容 病院内外での小児の緊急事態に対する救命処置のこと

乳児、小児を重度な病態（心肺停止）に陥らせないよう、患者急変時の初期評価方法を学ぶ

開催日時 平成29年11月25日（土）

開催場所 日立市消防本部

受講定員 24名

対 象 県内初期臨床研修医等

募集期間 平成29年10月上旬～11月10日（金）

※申込希望者は、各病院の臨床研修担当者に確認してください。

「水郡医師会」では、輪番制により24時間体制で大子町の救急医療を担っています

保内郷メディカルクリニック院長であり水郡医師会会長の櫻山拓雄先生に、大子地区の医療事情や、地域医療を守る水郡医師会6病院の協力体制についてお話を伺いました。

…水郡医師会6病院の特色は、どのようなことですか？

大子町の水郡医師会は、会員数が15名で、全国で少ない方から15番目という小規模な医師会です。しかしながら、産婦人科・総合内科・整形外科・精神科など多くの診療科を持ち、会員の協力により、うち3病院が輪番制により24時間体制で救急医療を担い、残りの3病院もケースによっては協力することになっています。

当院は常勤が私一人なので、専門外の耳鼻科や皮膚科、内視鏡科などは専門の先生に診療日に来てもらっています。慈泉堂病院が一番医師が多く、常勤で5人ぐらいいますし、大学病院から医師が派遣されて来ています。久保田病院も診療科が充実していますし、老健施設を併設しています。吉成医院は整形外科が専門でしたが、今は総合診療科で何でも診るようにしています。岩佐医院は産婦人科で、袋田病院は、精神科が専門ですが内科も診ています。

●バックアップ体制を取ってくれる病院があるから、24時間体制の救急医療を続けられる。

…24時間体制の救急医療についてお聞かせください。

最初に24時間体制で救急医療を始めたのは、当院と隣の久保田病院、既に閉院していますが樋口病院で、私の親の世代が院長だった頃です。樋口病院の小林先生が一番年上で医師会の会長をやっていたらして、田舎で顔見知りが多い中、夜間急に具合が悪くなり、電話がきて救急要請があったときには、交替で診ようということになったのです。

今から20年前に私が会長を引き継いだ時には、すでに20年以上も救急医療を行っていました。その当時は4病院で、1週間ごとに交代でした。現在は医師会の3病院が1週間ごとの輪番制で、かかりつけ病院のない患者さんや、観光客

医療法人保内郷厚生会
保内郷メディカルクリニック
院長

一般社団法人
茨城県水郡医師会
会長 **櫻山 拓雄**



が体調が悪くなって依頼があった時に救急当番で診ています。とにかく、どんな患者でも診るということを大事にしています。例えば婦人科の患者さんが来て、担当病院で分からない場合は、婦人科のある病院の先生に相談して診てもらおう。救急車が行って、当院がかかりつけの場合は、当番病院よりも当院が優先になります。

…救急医療はどのような患者さんが多いのですか？

多いのは、循環器系の心筋梗塞、そして脳出血、脳梗塞です。各病院で状況を判断して、いつでも対応してくれる水戸や日立の専門病院に搬送することが多くなっています。そういうバックアップ体制を取ってくれる病院があるということが、救急医療体制を続けていく一番の条件になるわけですね。今は病診連携というのがありますので、医師会と私が勤務していました水戸医療センターとか、日赤とかなどの総合病院と連携をとって対応しています。

大子町は北の山岳地帯ですから、救急車で送ると水戸まで1時間以上かかります。交通事故の場合は救急当番の病院に来てそこからまた搬送しなくてはならないので、今はドクターヘリと救急救命士の判断で直接、水戸医療センターか水戸済生会総合病院に搬送されます。脳外科の場合は、聖麗メモリアル病院やブレインハートセンターに搬送します。心筋梗塞の場合も、直接ドクターヘリで搬送します。ただ天候の悪い時や夜間はヘリが飛びませんし、現場ではなくランデブーポイントにヘリが来ます。土が舞い上がらないように芝生を植えたり、コンクリートにしたり、ランデブーポイントの整備も現在進めています。また、大子町は観光地ですから、観光にいらした方が脱水症になったり、滝で滑ってけがをしたという急患も多いです。

●患者さんとの距離が近い町で、一人ひとりの環境に合った医療を実践しています。

…大子町の地域医療の現状と問題点についてはいかがでしょうか？
大子町は高齢化と少子化が進んでおり、住民の42%ほどが65才以上です。外来の患者さんは80歳以上が多く、研修に来る医学生に「今日は高齢者の外来の日ですか」と聞かれます。

老人の一人住まいは、1,000人ぐらいいます。夫婦のみの場合、二人とも認知症などになったら誰が世話をするのかという問題があります。国は団塊の世代が全員後期高齢者になる2025年に向けて在宅医療を進めていますが、訪問診療や看護に行かない日はどうするのかなど、まだまだ解決しなくてはならない問題が沢山あります。当院でも医師を募集して、訪問診療に力を入れられるように取り組んでいきたいと考えています。今後は終末期医療や看取りが多くなりますから、二人ぐらい医師がいれば、役割分担しながらなんとかできるのではないかと思います。

研修医制度ができてから、地域医療は特に難しくなりました。医局制度の頃は交代で医師が派遣されてきましたが、前期研修、後期研修になってからは自分で研修先を選ぶので、大学の医局でさえ医師不足になるほどです。認定医制度により、専門性は高まったのですが、専門以外を診られないという医師が増えています。そのような中で、水戸協同病院は筑波大学の協力で総合診療科を設けていますので、二つの科に症状がまたがる場合など非常にスムーズに受け入れてもらえるので助かっています。

…今後の展望についてはいかがですか？

大子で診療を始めて35年ほどになります。病気を診るとのことよりも、病気と共に人を診ることが大事だと思っています。精神科の的場先生が、「医者には薬だけを処方するのではなく、患者が幸せになるように処方するのだ」と言っていますが、私もそう思います。東京の病院にいた時は、救急と麻酔を一緒にやっていました。地元へ帰ることが前提だったので、子どもから大人まで手術の時に麻酔をかけられるように、早い時期に麻酔医の資格を取りました。麻酔科で専門にやっていると、患者さんとのコンタクトはほとんどないのです。術前の説明と意識が覚めるころに診るだけで、あとは外科など担当科の仕事になります。

患者さんとの関わりは病気のことだけでなく、家族のこととか、環境のこと、家庭事情のこととかは分からないのです。でも大子だと、患者さんとの距離が近く、それぞれの事情というのが分かるので、例えば退院してもいい患者さんでも家に誰もいないということも分かっているから、一人ひとりの環境に合った医療を実践しています。

●現場を見て肌で感じて、来てみたいと思われたら私たちは歓迎します。

…医学生や研修医の皆さんにメッセージをお願いします。

水郡医師会の病院で、医学生の研修を引き受けて7年目になります。懇親会とか反省会で医学生の意見を聞いたりするのですが、なかには来てみてしげらみが多いのを感じて、それが嫌だという人もいます。自分が育った田舎で親が医者をやっているから、自分も跡を継ぐために勉強に来たという人もいます。環境が良くて住みやすそうでいいなという人もいます。ここでは地域医療をやっていますが、患者さんを診るのに地域も東京もないのですけれど、現場を見て肌で感じて自分でどういうふうにするか考え、来てみたいと思われたら私たちは歓迎します。

以前、地域医療の講習を医学部を目指す生徒さんたちが通う水戸市内の高校で行い、パネルディスカッションをしました。そのとき私の話にすごく興味を持って、「医者になったらぜひ先生の病院に行きたい」と言ってくれた生徒さんがいて、現在、医学部で勉強しています。私の孫も医学生で、「おじいちゃんの病院を手伝ってあげる」と言ってくれるのですが、2025年問題の頃は私は80歳ですから、どうなることやらです。これからも、川の流れるように、抵抗しないで流れに沿って続けていきます。地元の患者さんを看取ったり、終末期の痛みを取ったりしていきたいと思っています。

《茨城県水郡医師会》

- ・保内郷メディカルクリニック ・慈泉堂病院 ・吉成医院
- ・久保田病院 ・袋田病院 ・岩佐医院

病院紹介 友愛記念病院

(茨城県古河市東牛谷707)



ん治療に力を入れており、地域がん診療連携拠点病院に指定されています。また、地域医療支援病院ともなっています。

管理型臨床研修指定病院、協力型臨床研修指定病院（東京医科歯科大学、筑波大学）となっています。各診療科の連携は良好で、プライマリケアから専門的診療まで幅広い臨床研修を受けることができます。（院長 加藤奨一）

当院は昭和56年1月県西地区の古河市に設立された病院で、平成18年2月に病院を移転・新築しました。

宇都宮線古河駅から車で約10分の所に位置し、上野、新宿まで約50分と、都心へのアクセスも良好です。

病床数は325床、診療科目は消化器科、一般内科、循環器科、呼吸器内科、糖尿病科、血液内科、肝臓科、外科、呼吸器外科、血管外科、肛門科、乳腺甲状腺科、小児科、眼科、整形外科、脳神経外科、泌尿器科、婦人科、皮膚科、放射線腫瘍科、麻酔科、緩和ケア科と多岐にわたっています。

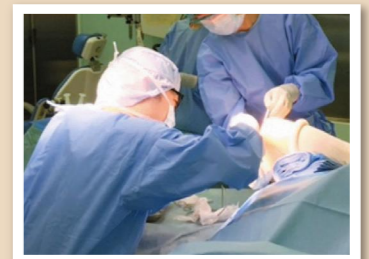
特に、外科治療、化学療法、放射線治療、緩和ケアと、が

研修医リレーエッセイ

筑波大学附属病院

猪股 兼人

私は、筑波大学附属病院のローテートで初期研修をしました。筑波大学初期研修の特徴としては、科毎にローテート先を大学病院・関連病院の中から選択でき、2年間を自分の希望に沿う形でコーディネートできる点にあると思います。大学病院では毎週のカンファレンスはもちろんのこと、学会発表などの機会を与えていただき、よりアカデミックな指導を受けることができます。また関連病院では基本的な手技やCommon diseaseを中心に臨床能力の向上に努めることができます。2年間の初期研修の間に自分の学びたいことが見つかる先生が多くいらっしゃいます。



また近年は県外出身の方も含め当院での研修を選ぶ先生方が多くいます。初期研修中そして研修後も茨城県内の各病院・各科に数多くの同期がいることは医療に従事する上で非常に心強いことだと考えられます。

当院で学びたいことがある方はもちろんのこと、初期研修での間に興味あることを探したい方は当院での研修を考えてみてはいかがでしょうか。

少しでも興味のある方は、一度当院へ見学にいらしてください。お待ちしております。

平成29年度 夏のイベント開催報告

○修学生・地域枠学生を対象にサマーセミナーを開催しました。

○全国の若手医師・医学生を対象に特訓ゼミ(第1シリーズ)を開催しました。

修学生サマーセミナー 1～2年生

参加者の声

- ・自分の将来を真剣に考える良い機会になった。
- ・ワークライフバランスについて議論することができて良かった。
- ・他大学の仲間達と交流できて楽しかった。

日程

平成29年8月18日(金)～19日(土)

内容

- 病院見学
- グループディスカッション
- 交流会
- 地域で活躍する医師の講話
- かみね動物園見学
- 宿泊先/久慈サンピア日立



修学生サマーセミナー 3～4年生

参加者の声

- ・将来医師として働くということに対して、具体的に考えることができて良かった。
- ・研修医とのディスカッションで有意義な話を聞いた。
- ・興味のある病院について詳しく知れた。

日程

平成29年8月16日(水)～17日(木)

内容

- 病院見学
- グループディスカッション
- 交流会
- 地域で活躍する医師の講話
- 那珂湊おさかな市場見学
- 宿泊先/ホテルクリスタルパレス



修学生サマーセミナー 5、6年生

参加者の声

- (5年生)・今まで参加したセミナーの中で、最も“地域医療”に深く接することができ、とても印象に残った。
- ・医師不足地域の現状や現場で働くことの覚悟を教えてもらった。
- (6年生)・多くの症例を聞くことができ、知らない疾患を学ぶことができた。

日程

(5年生)平成29年8月9日(水)～10日(木) (6年生)平成29年8月20日(日)

内容

- (5年生)※地域医療研修会をセミナーとして開催
- 大子町内医療機関見学/現場体験
- 現地医師との意見交換会
- 宿泊先/リバーサイド奥久慈福寿荘
- (6年生)
- 自治医科大学県人会主催の「茨城県地域医療学術集会」に参加



総合的診療を学ぶ特訓ゼミ(第1シリーズ)

平成29年8月11日(金) つくば国際会議場
総合監修:徳田安春氏(群星沖臨臨床研修センター長)

臨床推論5番勝負

実践に活用できる「ケーススタディ式」で進められ、参加者も自ら考えることで全人医療を実践できるマインドとスキルを習得しました。



腹部救急診療トレーニング

急性腹症ガイドラインに沿った、体系的な救急診療を学ぶための実践的トレーニングコースであるAbdEMeT方式で腹部救急診療スキルを身につけました。



参加者の声

- ・様々な年次の学生や先生と同じグループで学べて、とても勉強になりました。
- ・大変勉強になりました。茨城の病院で働いたら教育熱心な先生に恵まれ、働きやすいと思います。またよろしくをお願いします。
- ・能動的に考えてディスカッションすることで、知識のアウトプットができ、知識を整理する良い機会になりました。診断のプロセスをわかりやすく学ぶことができました。

茨城県からのお知らせ

茨城県地域枠募集のご案内

応募資格

将来、茨城県の地域医療に貢献する熱意を有する者であって、次のいずれかに該当する者

(1)茨城県内の高等学校等を卒業した者 (2)茨城県内に居住する者の子

返還免除要件

大学卒業後、茨城県知事が指定する医療機関で9年間勤務すること(うち1/2以上は医師不足地域で勤務)

貸与人数(地域枠定員)

筑波大学 26名(推薦入試 22名・一般入試 4名)
東京医科大学 8名 東京医科歯科大学 2名 杏林大学 2名
北里大学 2名 帝京大学 1名 日本医科大学 2名※

※地域医療医師修学資金貸与制度枠として設置

貸与金額

国公立大学:月額200,000円
私立大学:月額250,000円

県への応募期間等

筑波大学(推薦入試)・東京医科大学

応募期間:平成29年9月1日(金)～10月3日(火)(当日必着)
県面接日:平成29年10月21日(土)又は10月22日(日)

東京医科歯科大学・杏林大学・北里大学・帝京大学・日本医科大学

応募期間:平成29年10月5日(木)～11月7日(火)(当日必着)
県面接日:平成29年11月18日(土)又は11月19日(日)

筑波大学(一般入試)

応募期間:平成30年1月15日(月)～1月29日(月)(当日必着)
県面接日:平成30年2月10日(土)又は2月11日(日)

応募資格

将来、茨城県の地域医療に貢献する熱意を有し茨城県知事が指定する医療機関及び診療科において医師の業務に従事しようとする者で、筑波大学出願資格を満たす者

貸与金額 月額200,000円

貸与人数(地域枠定員) 筑波大学 10名

返還免除要件

茨城県知事が指定する医療機関及び診療科(産婦人科、小児科、救急科、へき地医療)で9年間勤務すること(うち1/2以上は医師不足地域で勤務)

県への応募期間等

応募期間:平成30年1月15日(月)～1月29日(月)(当日必着)
県面接日:平成30年2月10日(土)又は2月11日(日)

茨城県内対象

筑波大学(全国対象)

茨城県地域医療支援センター

茨城県水戸市笠原町978番6(保健福祉部医療人材課内)TEL:029(301)3191

http://www.pref.ibaraki.jp/hokenfukushi/jinzai/ishikakuho/isei/ishikakuho/top/index.html E-mail:i.doctor@pref.ibaraki.lg.jp